

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センタークムレ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 26
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	近隣に同法人の保育園があり、行事や活動を通して子ども同士の交流や多様な経験を積むことができること。	小ざく保育園のリズム遊び、園庭遊びへの参加を通して、障がいの有無に関わらず子ども同志の関わりを増やし、個々の成長につなげている。また合同行事の開催を通して、職員が保育や発達支援を学ぶ機会となっている。	継続していき、インクルーシブの視点で支援や活動を捉え、子どもの成長に結び付けていきたい。
2	専門職が配置されており、園児の支援だけでなく、保護者勉強会等を開催して、地域の保護者にも専門性を発揮していること	保育士の他、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士等が園児の支援に関わっている。また、地域の保護者に向けて専門職が勉強会を開催し、発達支援における知識、技術を伝達する機会がある。	継続していき、センターの専門性を地域に還元していけるようにする。
3	保護者の思いに寄り添いながら支援しようとする職員が多いこと	保護者支援の研修を取り入れ、保護者の気持ちに寄り添うことの大切さ、気持ちや考えを傾聴することの大切さを学んでいる。	継続していき、親子通園、単独通園の機能をもつセンターとして、保護者に寄り添い、気持ちを受け止められる職員を育成していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化が見られる。	親子棟トイレ故障、雨漏りなど、環境面での修繕が必要な場所がある。	都度、修繕していくことと、耐震検査を受ける。
2	地域住民が参加する行事や機会が少ない。	夏祭りのボランティアには参加して頂いたが、その他の行事や災害訓練では参加の呼びかけが出来ていない。	地域住民の参加の機会をどのように設けるか検討していく。
3			